名古屋外国語大学国際経営学部同窓会報
# NACION vol.4
2008年1月1日発行

発　行：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会事務局
〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
TEL：0561-74-1111（大学代表）
H P：www.nacion.jp
SNSｻｲﾄ: www.nufsplus.net
Email：info@nacion.jp
編　集：畑　恵（副会長）、浅井恭子（事務局長）

## 謹賀新年

新年、明けましておめでとうございます。昨年度は同窓会に多大なるご尽力を賜り、会員の皆様ならびに関係の方々に謹んで御礼申し上げます。

皆さまにとって2007年はどのような一年でしたでしょうか。世の中には悲惨な事件や事故も多く、心を痛める出来事がたくさんあったことと思いますが、それ以上に良い出来事や素敵な出会いも多い年であったことを願います。また2008年も素晴らしい年となりますよう、心より祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第３回総会及び懇親会

**無事終了いたしました。皆様、ご協力ありがとうございました。**

2007年7月7日（土）、名古屋外国語大学キャンパスにて第3回総会及び懇親会を開催しました。今年は約30名の会員と15名の教職員の方々、そしてアカペラサークル「ラボワ」の6名の在校生にご参加いただきました。

当日はキャンパス内のコミュニケーションプラザ1階をお借りし、11時より総会を開催しました。総会では、2006年度決算報告、2007年度予算案審議を行い、全会一致でご承認いただきました。また、2007年3月に現代国際学部第1期生が卒業するにあたり、来年度より同窓会名称を「名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会（通称：NACION）」と改称することが、総会にて決定しました。

その後11時40分より懇親会を開催し、まず始めに水谷修学長、中西克彦理事長よりご挨拶を頂戴しました。そして玉井俊紀学部長による乾杯の音頭で宴が始まりました。しばらくの会食後、ご出席いただいた教職員の皆様に一言ずつご挨拶を頂戴しました。ご協力いただきました教職員の皆様、誠にありがとうございました。

そして、2007年3月をもって名古屋外国語大学をご退職された熊田喜三雄先生、辻節雄先生に同窓会より記念品（名前入りガラス製フォトスタンド）を贈らせていただきました。熊田先生、辻先生、長い間ありがとうございました。

その後、余興としてアカペラサークル「ラボワ」の皆さんが、昨年同様に素晴らしい歌声を聞かせてくださいました。加えて今年は、愛知県を中心に東海地方で活躍している「UMACHO（ウマッチョ）」の皆さんをお呼びし、楽しいパフォーマンスを披露していただきました。

また、最後には恒例の大抽選会が行われました。今年は同窓会設立10周年ということもあり、昨年よりも豪華な景品を多数用意し、ご参加いただいた皆様には大変喜んでいただけたようでした。

総会・懇親会も今回で3回目でしたが、毎回参加人数が少なく、若干寂しい感じがあります。卒業生全員の集まりということで、なかなか参加しづらい部分もあるかと思いますが、ご出席いただく教職員の皆様も卒業生に会えるのを楽しみにお集まりいただいていますので、会員の皆様、ぜひ来年度からはお誘い合わせて積極的にご参加ください。先輩・後輩に関係なく卒業生同士で交流するのも楽しいものですよ。

事務局では、皆様に楽しんでご参加いただけるよう今後も尽力してまいりますので、今後のイベントにぜひご参加いただきますようお願い致します。

### 名古屋外国語大学国際経営学部同窓会　第３回総会及び懇親会次第

日　　時：2007年7月7日（土）11：00～14：00
会　　場：名古屋外国語大学コミュニケーションプラザ1階
総会次第：1．開会の辞
2．同窓会長挨拶
3．総会議事
①2006年度決算報告
②2007年度予算案
③同窓会名称について
④その他
4．閉会の辞

懇親会次第：1．開会の辞
2．名古屋外国語大学長挨拶
3．中西学園理事長挨拶
4．現代国際学部長挨拶（乾杯）
5．退職者記念品贈呈
6．余興：アカペラサークル「ラボワ」
7．余興：「ウマッチョ」
8．抽選会
9．同窓会副会長挨拶
10．閉会の辞

## ご出席いただいた教職員の皆様（順不同）

中西　克彦（中西学園理事長）
蔵田　敏明（学生部長）
熊田喜三男（先生）
浅野　昌章（学生課長）
水谷　　修（学長）
浅野　輝子（先生）
柴田　祐作（先生）
丹羽　智子（学生課）
玉井　俊紀（学部長）
宮川　公平（先生）
林　　茂雄（先生）
宮田　宏枝（現代国際学部事務局）
奥田　隆男（学科長）
植松　千里（先生）
武田　修治（事務局長）

## 大抽選会景品一覧

①ニンテンドーWii
②最高級松阪肉（２万円分）
③伊勢志摩産 鮑＆栄螺詰合せ（２万円分）
④ルクルーゼ鍋
⑤折りたたみ自転車
⑥ロクシタンお楽しみセット×３
⑦ランジェリー（女性用）×４
⑧ランジェリー（男性用）×２
⑨フェイシャルケア器具
⑩フットケア器具
⑪バリカン
⑫ＭＡＣリップグロス×２

## NACIONスカラーシップ

昨年度まで実施していた「学業優秀奨励賞」と「課外活動奨励賞」を本年度より一つにまとめて「ＮＡＣＩＯＮスカラーシップ」と改めました。これまでは結果に対して受賞者を決定していましたが、ＮＡＣＩＯＮスカラーシップでは、何かを学ぼうとしている学生で、支援者を必要としている学生を募集し、その内容によって奨学金を支給することとなりました。

第１回目の募集（2007 年６月）には３名の学生より応募があり、役員会にて書類審査と面接を行って、その内２名の学生へ１０万円ずつの奨学金を支給することと決定しました。

同窓会は、何かを学びたくても金銭的な面で困難な学生を支援していきたいと考えます。今後は、皆様から頂戴した寄付金の一部もこの奨学金の一部として活用したいと考えますので、もっと多くの学生に奨学金を支給できるよう、益々のご支援をよろしくお願い致します。

### 2007 年度受賞者

桂　麻莉絵　さん　[現代国際学部現代英語学科３年]
中澤　勇貴　さん　[現代国際学部国際ビジネス学科１年]
※次号にて上記受賞者の活動報告を掲載します。

## 同窓生のいま

**毎号、数名の同窓生をピックアップし、卒業後の近況をお伝えします。**

**桑 原 由 美 さん （１期）**

早いもので大学を卒業してもう 10 年。新しい生活の始まりに胸躍らせた入学式も卒業式もつい先日の事のように思い出されるのに…歳月の流れの早さに驚かされます。

卒業後、私は幼い頃から思い続けた夢の実現として航空貨物業界の DHL に入社し、カスタマーサービスとソフトのヘルプデスクとして４年半勤めました。その後は銀行、メーカーの仕事を経て結婚。そして夫の海外赴任のため渡印しました。 幼い頃からの憧れだった‘海外で暮らす’ 夢を夫が叶えてくれました。インドという異なる文化の中で学ぶことの多さはもちろん日本人コミュニティーの中で学ぶことも沢山あり私の人生において大変貴重な時間だったと思います。

インド、デリーでの生活。ヒングリッシュとも言われるインド人独特の英語の発音、二言目には「No problem!」、50℃に達する気温、停電、サーバントとのトラブル、インド時間といわれるほどのルーズな時間感覚にカチーン!! （怒）とくることもありました。しかしほとんど聞き取れなかったヒングリッシュも、現地の生徒に紛れ英会話教室に通った成果か帰国時には母国語とする人達の英語より心地よく耳に入るようになっており、初めは耳についた「No problem!」もインド人のおおらかさの一面であると感じる場面が多くなっていました。悠久の時間の流れの中で生きてきた彼らの生活リズムを、日本という社会で生きてきた私のリズムに無理矢理合わせようとし過ぎていたのでしょう。

そして待望の赤ちゃんもインドで授かりました。夫より一足先に帰国し 2006 年 10 月に男の子を出産。今は楽しいながらも子育ての大変さを実感する毎日です。なかなか自分の時間が取れない生活の中、寝付いた息子を眺めている時などふとこれまでを振り返ることが多くなりました。私にとって大学で過ごした４年間は親元を離れ自由な生活の中での大きな転機でした。楽しい時間でもあり色々考えもっとも悩んだ時期でもあります。夫をはじめそんな時に出会い支えてくれた親友。数少ないですがとても大切な存在で今でもいつも深く心の支えとなっています。この親友たちに巡り合わせてくれた大学に感謝しています。

日本に帰国し一年半、また夫の駐在が決まり、今度は想像もしなかった遠く南米、アルゼンチンはブエノスアイレスでの暮らし。今回は子供もいますし不安もありますがこのような機会に恵まれた事に感謝し積極的にあらゆる事に取り組んでいきたいと思っています。

（2007 年 11 月記）

# 先生のあしあと

**国際経営学部・現代国際学部の教員の方々から同窓生へ、社会人の先輩として心のこもったメッセージや教訓を頂戴しています。**

## 「先輩同級生」ー中国の大学時代の思い出

国際ビジネス学科　林　　慶　雲　先生

名古屋外国語大学に着任してはや、半年が過ぎました。忙しい毎日ではありますが、非常に充実した日々を送っております。ここで、国際経営学部同窓会会報の紙面をお借りして、同窓会の皆さんならびに在学生、教職員の方々に感謝を申し上げるとともに、私の、中国の大学時代の思い出を皆さんにお伝えしたいと思います。

中国のアモイ大学（Xiamen University）を卒業して、もう 20 数年経ちました。この間、ずっと海外に生活しているので、大学時代の同級生と逢えるのは、私が中国に一時帰国したときか、または同級生が仕事などで日本に来るときに限られ、ちょっとさびしいものです。

[写真]林 慶雲 先生(右)、李 若山 先生(左)

このような状況のなかでうれしいことに、今年 10 月の初め、久しぶりに同級生のひとりと神戸でお逢いできました。「東アジア会計フォーラム」が神戸で開催され、私は司会者、同級生は基調講演という役割で異国の地で、ちょっとしたドラマチックな再会でした。今日は、この同級生の話をさせていただきます。

彼の名は李若山。現在、中国上海の復旦大学で会計学の教授を務めています。会計の先生と言えば、大抵堅いというイメージがもたれますが、彼は決してそうではありません。講義が面白いから、履修していない人もいっぱい来て、300 人収容の大教室でも、立ち聴きがでるくらい名物教授だそうです。また、彼の講義中の名言を集めた「李若山語録」がネット上に出回っているほど、中国で最も名前が知られている会計学者と言えます。

実は、彼と私は大学 4 年間、ずっと同じクラスにいた正真正銘の同級生です。同級生といえば、同年代と思われがちですが、実際は彼が私より 12 歳も年上です。1960 年代の後半、中国に「文化大革命」が起きていたことをご存知の方ならおわかりかと思いますが、1966 年から 1977 年までの 12 年間、中国のすべての大学は「開店休業」という状況にありました。また、当時の国策として、都会の高卒者を一斉に農村に行かせ、自給自足をさせる「下放（かほう）」政策がありました。したがって彼は、高校を卒業した後、すぐに上海を離れ、江西省の農村に行かされました。そこで 12 年間、農作業の仕事をしていました。

大学が入学試験を再開した 1978 年に、彼がアモイ大学に進学して、そこで私たちの同級生生活がはじまりました。入学したときには、彼がすでに 30 歳を過ぎ、子供もいる父親でした。当時は彼のような 30 歳過ぎの大学生はめずらしくはなく、私が在籍した会計学科のクラスだけでも、同級生 65 名のうち、彼のような「ひと回り年上」の人が彼を含めて 7 人もいました。彼らの生まれた年は 1948 年なので、建国（1949 年）前の世代と言われます。この「建国前世代」と呼ばれる 7 人の「先輩同級生」が私たちのクラスの先導役でもあり、私のような「現役生」を引っ張ってくれました。

当時は、全員寮生活のため、彼ら 7 人が各部屋に配置され、室長となって私たち「後輩同級生」の面倒を見てくれました。李さんはいつも規則正しい生活をしていました。朝 5 時ごろに起きて、キャンパス一周のジョッキングをしてから、その日の授業の予習などして、時々、声を出して英語の勉強もしました。私は彼のことを感心しましたが、何でそこまで必死に勉強するのかと思うときもありました。彼はこういうことを言っていました。「あなたたちと比べて、私は 12 年間を失っている。だから、時間を無駄にできない」。いま思えば、彼のような立派な「同級生先輩」がいたから、多くのことを学ぶことができて、非常に貴重な 4 年間でした。

私が大学で勉強していたとき、中国はまだ完全な社会主義計画経済の時代で、授業料や寮費がまったくかからないばかりか、生活費まで支給されました。いまでは考えられないぐらい、大学生が非常に恵まれた時代でした。ただし卒業後の就職は、派遣制により、指定された職場しか選択肢がありませんでした。私たちクラスの就職状況は、大学が再開された最初の卒業生ということもあったからか、65 名の同級生のうち、中央省庁に就職したのは、実に 13 名もいました。また、現在大学教員をしているものも 10 数名います。私事で恐縮ですが、私は国費留学生の候補として大学に残り、3 年後、カナダの Dalhousie 大学ビジネススクールに行く機会を得ました。

大学生時代はもう 20 数年前のことになってしまいましたが、私にとって、大学 4 年間は、多くの友ができて、素晴らしい思い出いっぱいの 4 年間でした。

学生時代の貴重な「時」はもどってはきません。でも、このように時折、当時をふり返り、今を見直し、将来を見極めることは、とても大切なことのように考えます。

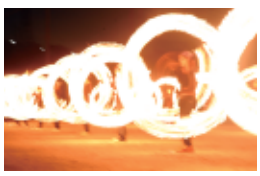
（2007 年 11 月記）

## 2007 年度大学祭が開催されました。

2007 年 10 月 27 日（土）～ 28 日（日）にかけて、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学合同祭が開催されました。

土曜日はあいにくの台風に見舞われましたが、日曜日は台風一過の晴天となり、無事に開催することが出来ました。当日は約 80 店もの模擬店が出店され、キャンパス内に用意された 5 つのステージや各会場では、約 70 ものイベントが行われました。今年の目玉は俳優として活躍中の「平岡祐太」さんのトークショーで、そのチケットを手に入れようと、前日から並び始める学生がいたりと大変な賑わいでした。

頑張って準備した学生、参加した学生、彼ら全てにとって、大学祭は良い経験と素晴らしい思い出となったことでしょう。



卒業した皆さんも、たまには大学祭を覗いてみてはいかがでしょう。懐かしい人や思い出が溢れているはずです。

# 現代国際学部ニュース

## ◇最近の国際ビジネス学科の紹介とお願い◇

### 現代国際学部生が卒業します

卒業生の皆様お元気でご活躍のことお喜び申し上げます。国際経営学部として出発して 13 年目になりますが年々送り出します卒業生の皆様の数も増え同窓生としての活躍の場・交流の機会が広がって参りましたことに心強い思いをいたしております。そして本年はいよいよ「国際ビジネス学科」での卒業生を送り出す年度にもなりました。社会の経済状況も好調の様子で就職活動も比較的順調に進みスタッフ一同喜んでいます。

私たち「国際ビジネス学科」では、英語を活かし、ビジネス界はもとより、国際社会で広く活躍できる能力、人間形成を目指しています。それは国際経営学部の実績を踏まえ一歩ずつ前進することに他なりません。そのためにも国際ビジネス学科では、あらゆる機会を活用すべきと考え新入学時より様々な企画を連動させ学生自身のキャリアアップ形成に取り組んでいます。この一連の試行を「職業教育に向けた大学カリキュラムおよび指導プログラムの開発」として「文部科学省の推薦事業」に申請いたしましたところ 06 年度より３年間の継続事業として採択されました。今回はその内の「ビジネス研究の教育」に関する二つの取り組みについてご紹介をさせて頂きます。

### みんなでビジネスの世界を研究しプレゼンテーションする。キャンプと研究発表会のコラボレーション。

まず仕事は楽しくと思います。たとえば現代の「働くことの意識調査」があるのですが、ここで「仕事中心か生活中心か」の問いに対して 80% 近くが「仕事と生活の両立」とあります。さらには「生活中心」派が「仕事中心」派を遥かに越え、多くは人生を、家庭を楽しみながら仕事をするという。狭い人間関係に縛られることなく，職業（Work）・社会（Social）・家庭（Family）の中に生きがいや満足を求め、かつ自分（私は私）を主張できるというのが理想となるのでしょう。ビジネスを学ぶのは「楽しく働く」ためということになりそうですが、ここではまず自分の確立ということこそが大切なのでしょう。なによりしっかり自分をアピールする能力が求められます。

大学生活で培いたいものは「柔軟な思考を持った、時代の風を受け止めて、自ら生きる力をもった、魅力溢れる人間像」の育成です。一つの試みとして、入学時には「オリエンテーションキャンプ」を、そして学生生活への動機付けを目的としてただちにその夏に「サマーキャンプ」を催します。さらに一年を経過し、学生達の二度目の夏休みをひとつの契機として本格的な大学での研究への始動と自己の生存領域の確認を目的としての企画、それが私どもが「ビジネス研究フォーラム」と称しております夏期研修キャンプです。

時間をおかずに行動しますのは、新入学の年を経験し、大学での２年次は個人が自分自身を見つめるのに大切な時期と心得ますが故です。夏期休暇は大学生として「何かをしなければいけない自分」を自覚する絶好のチャンスではないでしょうか。

そしてわたしたちの「キャンプ (academic camp)」の行動への理念はここから出発しています。直接的にはビジネスを共通の研究課題として、いろいろな角度から検討することから始めます。そしてその成果を共通の場での「発表 (presentation)」で共有することを手段として採用しています。

同時にここでは学生自身による「キャリアプランの確認」をプログラムにいれてまいります。回を重ね、その成果は私たちの期待を遙かに超えたもの、確かな成長を確認いたしております。そして触れあいの中で普段私たちが見過ごしがちな学生達の意外な一面に気づくことが多々あります。確実に現代に対応した人間像が育っているのです。

### 卒業生の皆様の実態調査を準備中です

先にご紹介した事業の一環として独自な観点から「企業調査」を実施しました。それは卒業生が大学で学んだ知識を生かして将来自己を実現できる「場」を見つめてのことです。近年自ら起業を志す学生も育ち心強いことですが、「現場の声に学ぶ」ということはいかなる場合にも不可欠ではないでしょうか。例えば「英語の活用状態」「現場で必要な専門知識」「社会で求められる人間像」等を企業側からも積極的に意見を寄せて頂きました。当然厳しい要望や反省を促す回答も戴きました。しかし私たちはそれら企業の協力を得てさらに直接インタビューを実施することによりさらに充実した内容を得ることができました。

なにより私たちは「外国語大学だからこそできるビジネスの教育」の実現をめざしているのです。タイトルで「卒業生の皆様へのお願い」と申しましたものは、私たちはこのように様々な企業の求める人間像、大学の対応等に関する基本調査も実施し、確実なデータを基にして事業を展開していますが、本年度は卒業生の皆様のご協力を得ることにより、より着実に未来への路を切り開いていきたいと計画しています。

卒業して「もう少し勉強しておけばよかった」はよく聞く声です。しかしビジネス理論の習得に完成はないのですから必要が、関心がでてきたときにまた続けてもらえばよいのではないでしょうか。それは経済社会で生き抜く限り求め続けなければならない知識だと思います。「経済とは生きる知恵」、ビジネスセンスを身につけるということはそういうことだと思います。

同期の社員が一緒にスタートラインに立つ新入時、一見大学時代の専攻やなにを勉強したかと言うことは背後に隠れているかも知れません。しかし動き出してみればすぐわかります。より時代は着実に進んでいるのです。真の力を持った人が求められているのでしょう。スタートラインで同じであっても、数年たたない内にポテンシャルの違いは歴然となってきます。組織は冷静に、その見極めの時を待っているのです。私たちは卒業生のみなさんがビジネス理論を花咲かせ、仕事の中で本当の自分を活かして欲しいと願っているのです。

一部の卒業生の皆様にご協力をお願いすることになるでしょうが「国際経営学部の先輩」としての声を聞かせてください。現在そのためのアンケートの作成を急いでいます。学科としての就職サポート（企業調査を活かす）は当然ことなのですが、なにより卒業生の皆様のアドバイスに期待いたします。

国際ビジネス学科長　稲福 善男 教授

# ◇現代英語学科　2007 年度これまでの取り組みとこれからの予定◇

## 1）海外研修・留学

夏期短期研修

8 月 4 日～ 9 月 2 日の日程で、現代国際学部の 27 名がアデレード大学（オーストラリア）にて語学研修を行いました。

春期短期研修（2008 年 2 月及び 3 月実施）

春期研修はオーストラリア・カソリック大学（オーストラリア）及びワイカト大学（ニュージーランド）の 2 大学にて行われます。

中期留学

今年度は、現代国際学部の 15 名が 9 月 15 日～ 12 月 16 日の日程でマンチェスター大学（イギリス）に行っています。マンチェスターはイギリス北西部に位置し、古くは産業革命発祥の地の一つであり工業都市として有名でしたが、現在では商業都市として、さらには高等教育・メディア・芸術の盛んな都市として分野でも知られています。マンチェスター大学はこれまでに多くのノーベル賞受賞者を輩出するなど、イギリスでも屈指の大学です。同大学の英語プログラムでは、通常の英語プログラムに加え、インターンシップも経験することになっています。

## 2）国際交流プログラム

今年の夏、現代英語学科の 17 名がフィリピン・スタディツアー（8 月 30 日～ 9 月 9 日）に、4 名がワールド・キャンパス・インターナショナル（以下 WCI）（8 月 20 日～ 9 月 16 日）に参加してきました。フィリピン・スタディツアーでは、10 泊 11 日の日程で前半はセブ島近隣のオランゴ島でのマングローブ植林、後半は山間部バランガイ・スドロンでの植林を体験してきました。植林以外に、オランゴでは、ネイチャー・センターにてオランゴ島周辺の環境についてのレクチャー、チャイルド・センターでの子供たちとの交流を、バランガイ・スドロンでは小学校での文化交流も行なってきました。WCI のプログラムは、世界 18 カ国の若者と日本の若者が一緒に日本の各地を周りながら文化交流を図るもので、本学科の学生が 4 名参加し、約一ヵ月の間に長崎県大村市、熊本県熊本市、奈良県宇陀市、大阪府吹田市の 4 都市を訪れました。外国人の若者と一緒に生活や活動を共にすることで、日本にいながらにして異文化体験することができました。また、それぞれの都市では本学科の学生を含む日本人参加者が、外国人の若者に日本文化を伝えていく重要な役割も担いました。それぞれのプログラムとも「社会体験を通した豊かな人材・リーダーシップの育成」を目指すものとして非常に有意義なものとなりました。

## 3）教養文化セミナー

教養文化セミナーは今年度からの行事で、年に一回さまざまな文化理解を目的として実施されます。一年生から三年生を対象とし、一年生は 6 月 24 日にオペラ「セビリアの理髪師」を鑑賞しました。二年生は 10 月 13 日に歌舞伎「顔見世」を鑑賞しました。多くの学生にとって、オペラや歌舞伎鑑賞は縁遠いものという印象だったようですが、実際に本物を見てその迫力に魅力を感じている様子でした。三年生は 11 月 21 日にホテル・ウェスティンナゴヤキャッスルにてマナー講座を体験します。同講座では、社会人として必要なテーブルマナーについて、専門家の指導のもと学ぶことができました。

## 4）教育懇談会

10 月 20 日に教育懇談会を実施しました。一年生の保護者を対象としたものですが、今回は現代国際学部全体で 52 組 78 名の参加者がありました。教育懇談会では、各学科の取り組み・留学制度などを紹介し、その後各教員がクラスアドバイザーとして担当している学生の方と個別面談を行いました。

## 5）エアライン・インターンシップ

今夏 8 月から 9 月にかけて、本学科の学生 6 名が JAL インターンシップに参加してきました。中部国際空港（セントレア）やロンドンの JAL 関連施設にて研修を受けてきました。また、ANA インターンシップには本学科の学生 1 名が参加してきました。

## 6）学生通訳コンテスト

本学科では全国各地の通訳教育を行っている大学に呼びかけ、12 月 1 日に「第一回学生通訳コンテスト」を開催することになりました。東京外国語大学、神戸市外国語大学、京都外国語大学、大阪大学など全国 8 大学 10 名の学生が日頃の通訳スキル鍛錬の成果を競うもので、本学の学生も 2 名参加することになっています。講演者として大阪大学の津田守教授をお迎えします。また、本学からも国際ジャーナリストとして活躍される内田忠男教授がスピーカーを務めることになっています。

## 7）初の卒業生と就職動向

来年 3 月に本学科は初の卒業生を送り出します。2004 年（平成 16 年）4 月、現代国際学部は国際経営学部を改組し発足いたしました。本学科では、社会で通用する英語力を身につけ、世界の人々と交流ができる教養ある学生を育てることを目標に、英語教育と教養教育を柱とするカリキュラム構成にしてまいりました。また、海外経験を積むための海外語学研修や海外留学、実社会で必要とされる TOEIC/TOEFL 対策用の英語資格講座などさまざまな取り組みも行ってまいりました。学生たちの様子を見ると、TOEIC800 点をこえる学生が何人も出るなど、こうした取り組みが一定の成果があったと率直な感想を持っております。就職状況に関しても、大変うれしいことに非常に高い就職率、内定率になっています。これは中部地区の好景気を反映していると思われますが、全国平均と比べても高い水準となっております。こうした結果は、後輩学生たちにとっても大きな励みとなるでしょう。現代英語学科では、これまでの 4 年間を振り返りつつ、学生一人一人が有意義な学生生活を送れるようなカリキュラム作り、さまざまな試みを行ってまいりたいと思っております。

現代英語学科　宮川 公平 先生

# 同窓会本部より

冒頭にてご案内したとおり、本年度総会にて下記のとおり 2006 年度決算及び 2007 年度予算について承認されました。

また、2008 年 3 月に現代国際学部第 1 期生が卒業するにあたり、来年度より同窓会名称は「名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会（通称：NACION）」と改称することも決定しましたので報告いたします。

## 2006年度決算

| 収　入 | | | 支　出 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 項　目 | 金　額 | 摘　要 | 項　目 | 金　額 | 摘　要 |
| 前年度繰越金 | 14,145,270 | 三菱東京ＵＦＪ銀行 | 卒業行事援助 | 308,736 | しおり、記念品、パーティー援助等 |
| 会費収入 | 2,500,000 | 平成18年度卒業生250名分 | 総会費 | 1,184,795 | 案内、資料、懇親会援助等 |
| 懇親会費 | 90,000 | 懇親会参加者30名分 | 広報費 | 585,045 | 会報作成・送付 |
| 寄付金 | 30,000 | | 奨学金 | 310,000 | 学業優秀賞、課外活動奨励金 |
| 預金利息 | 5,653 | 三菱東京ＵＦＪ銀行 | ＨＰ開発・運営 | 1,111,217 | |
| | | | 事務費 | 517,601 | 会議、交通、通信、人件費、雑費 |
| 合　計 | 16,770,923 | | 合　計 | 4,017,394 | |

次年度繰越金額　12,753,529　円

## 2007年度予算

| 収　入 | | | 支　出 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 項　目 | 金　額 | 摘　要 | 項　目 | 金　額 | 摘　要 |
| 前年度繰越金 | 12,753,529 | 三菱東京ＵＦＪ銀行 | 卒業行事援助 | 350,000 | しおり、記念品、ﾊﾟｰﾃｨｰ援助等 |
| 会費収入 | 2,300,000 | 平成19年度卒業生230名分 | 総会費 | 600,000 | 案内、資料、懇親会援助等 |
| 預金利息 | 10,000 | 三菱東京ＵＦＪ銀行 | 広報費 | 300,000 | 会報作成 |
| | | | 奨学金 | 200,000 | NACIONｽｶﾗｰｼｯﾌﾟ |
| | | | 10周年記念ｲﾍﾞﾝﾄ費 | 200,000 | |
| | | | 事務費 | 450,000 | 会議、交通、通信、人件費、雑費 |
| | | | 管理・運営費 | 150,000 | 会員ﾃﾞｰﾀ管理費、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ運営費 |
| | | | 予備費 | 50,000 | |
| 合　計 | 15,063,529 | | 合　計 | 2,300,000 | |

次年度繰越予定金額　12,763,529　円

## 会員情報変更届

確実に同窓会からの情報が届くよう、住所等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。変更は NUFS+ の「卒業後の住所変更」にて可能です。また郵送・FAX・Email でも受付けます。

NUFS+　http://www.nufsplus.net
住　所　〒470-0197　愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学国際経営学部同窓会事務局
Tel/Fax：0561-74-1111 ／ 0561-75-1723
E-mail：info@nacion.jp

## 会報及びホームページへの掲載募集

皆様からのメッセージを同窓会報やホームページへ掲載します。メッセージやイベント情報など、同窓会員へ伝えたい事があればなんでも結構です。随時受付けますので、お気軽に下記までご連絡下さい。

住　所　〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学国際経営学部同窓会事務局
Tel/Fax：0561-74-1111 ／ 0561-75-1723
E-mail：info@nacion.jp

注意／個人・団体への誹謗中傷や宗教その他の勧誘目的など、法律に違反する内容や同窓会報に相応しくないと判断する内容に関しては掲載をお断りする場合がありますので、ご了承下さい。

## 寄付のお願い

今後の同窓会活動を活性化する為、寄付のご協力をお願い申し上げます。会員の皆様が交流する機会を提供する為、また在校生への支援の為、ぜひご協力下さい。ご協力いただきました方々は会報誌にお名前と回生を随時掲載させていただきます。

### 寄付金振込方法

振込用紙の郵送を希望する方は、同窓会本部へご連絡下さい。ATM 及びネット送金の場合は下記口座までお振込み下さい。（一口 1,000 円として何口でも。）

ATM 及びネット送金の場合、振込者の確認が難しいため、大変お手数ですが振込みされた内容と氏名、住所、電話番号、回生を同窓会本部へ電話、メールなどにてご連絡下さい。円滑な同窓会運営の為、皆様のご協力をお願いいたします。

### 寄付金振込先

三菱東京 UFJ 銀行　栄町支店　普通 1360405
口座名義：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会

### 2007年4月～12月までの寄付者

柴田 祐作（教授、2006 年 3 月ご退職）
畑　　恵　（2 期生）

ご支援、ありがとうございます。

## 同窓会沿革

１９８８年　４月　名古屋外国語大学創設
１９９４年　４月　国際経営学部国際経営学科を設置
１９９８年　３月　第１期生卒業、国際経営学部同窓会発足
２００４年１０月　国際経営学部同窓会名簿発刊
２００５年１２月　第１回総会及び懇親会開催
２００６年　３月　国際経営学部同窓会報創刊
２００６年　７月　第２回総会及び懇親会開催
２００６年１０月　同窓会報「NACION paper」第２号発行
２００６年１１月　同窓会ホームページ「NACION」開設
２００６年１２月　同窓会SNSサイト「NUFS+」開設
２００７年　５月　同窓会報「NACION paper」第３号発行
２００７年　７月　第３回総会及び懇親会開催
２００７年１２月　同窓会報「NACION paper」第４号発行

## 同窓会役員

武原啓子（会長・１期）　中村憲広（副会長・２期）　畑　　恵　（副会長・２期）　浅井恭子（事務局長・１期）　横井万里子（書記・５期）
吉田正幸（書記・６期）　瀧　浩史（会計・１期）　内門はるか（会計・６期）　岩出朋子（会計監査・２期）　近藤健太（会計監査・８期）

## 同窓会幹事（順不同･敬称略）

鈴木千賀（１期）　飯吉美絵（１期）　中川大輔（１期）　崎山純子（１期）　長峰ユカ（１期）　山下理恵（１期）　鈴木裕介（１期）
伊藤真彦（１期）　服部貴子（１期）　加藤優一（１期）　山崎　豊（１期）　中野桃子（１期）　太田友和（１期）　松原一仁（１期）
竹内千恵（１期）　代田喜之（１期）　八木正人（２期）　原万里子（２期）　森川浩希（２期）　浅野享洋（２期）　岡崎由美（２期）
大井健一（２期）　北山裕美（２期）　平林順子（２期）　荒川誠治（３期）　伊藤　望（３期）　桜川崇弘（３期）　鳥居佳夫（３期）
平井由香（３期）　川平泰雅（４期）　栗田三由紀（４期）　藤田達也（４期）　田中文彦（４期）　犬飼尚樹（４期）　清　正博（５期）
潮田裕稔（５期）　三好里佳（５期）　吉田和代（５期）　後藤直樹（５期）　大石彰則（６期）　伊藤太一（６期）　城月雅大（６期）
祖父江匡記（７期）　徳山正康（７期）　古町真貴（７期）　竹内千晶（７期）　井上高志（７期）　田中潤一（７期）　伊藤浩明（８期）
藤田浩史（８期）　水野裕也（８期）　新宮好洋（９期）　杉浦永美（９期）　石井和弥（１０期）　岡本　愛（１０期）　坪井祐一（１０期）
登立洋平（１０期）

## 会　　則

### 第１章　総　則

第１条　本会は、名古屋外国語大学国際経営学部同窓会と称する。
第２条　本会は、名古屋外国語大学内に事務局を置く。
第３条　本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。
第４条　本会は、前条の目的を達成するため、次の各号の事業を行う。
（１）会員の親睦に関する事業
（２）会員名簿の発行
（３）その他前条の目的を達成するための必要な事業

### 第２章　会　員

第５条　本会は、本学部の卒業生をもって構成する。

### 第３章　役　員

第６条　本会には、次の役員をおく。
（１）会長１名　　（２）副会長２名
（３）事務局長１名　　（４）会計２名
（５）書記２名　　（５）会計監査２名
第７条　本会に卒業年次毎に若干名の幹事をおく。
第８条　本会に名誉会長をおくことができる。名誉会長には、学長を推戴する。
第９条　本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会にて推薦する。
第10条　会長・副会長は、総会において選出し、その他の役員は、会長が幹事及び会員の中から委嘱する。
２．幹事となる候補者は、ゼミで立候補若しくは推薦により選出し、会長に届け出るものとする。
第11条　役員の任期は、２年とする。ただし再任を妨げない。
２．欠員によって補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
３．役員は、任期が満了の後でも、後任者が選出されるまで、なお、その職務を行う。
４．幹事の任期は、永続とし交代したい場合は、後任者を選出し、その旨を役員会に届け出ることとする。
第12条　役員及び幹事の職務は次のとおりとする。
（１）会長は、本会を代表し、会務を総括する。
（２）副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（３）事務局長は、本会の総括事務にあたる。
（４）会計は、会計事務を担当する。
（５）会計監査は、会計を監査し、監査報告書に意見を付し会長に提出する。
（６）書記は、本会の庶務事項を処理し、書類を保管する。
（７）幹事は、諸業務を分掌する。

### 第４章　会　議

第13条　役員会は、会長がこれを招集する。
２．役員会の議長は、会長が行う。
３．役員会は、役員の過半数をもって成立し、議事は出席役員の過半数をもって決する。
第14条　総会は、定期総会と臨時総会とする。
２．定期総会は、年１回開催する。臨時総会は、必要と認めたとき開催する。
３．定期総会・臨時総会は、会長が招集する。
４．総会には、議長を置く。議長は総会で選出する。
第15条　次の事項は総会の議決を経なければならない。
（１）会長・副会長の選任または、解任
（２）本会の事業計画及び収支報告
（３）本会の事業計画及び収支決算
（４）会則の変更に関する事項
（５）その他の本会の業務に関する重要事項
第16条　総会は会員の過半数の出席で成立する。議事は、出席者の過半数で決定し、賛否同数のときは、議長が裁定する。欠席の場合は、委任状をもってこれに代えるものとする。

### 第５章　会　計

第17条　本会の経費は、会費・寄付金をもってこれに充てる。
会費は、卒業時に終身会費１万円を納付する。
第18条　会計年度は４月１日から翌年３月３１日までとする。
第19条　受け入れた金品は確実な銀行若しくは郵便局に預け入れ保管する。
第２０条 すでに納入した会費は、返還しない。

### 第６章　事務局及び職員

第21条　本会の事務を処理する為、事務局に職員を置くことができる。ただし、本会の運営のための事務は、当分の間これを名古屋外国語大学に委嘱する。
２．職員は、役員会の同意を経て、会長がこれを任免する。

### 第７章　支　部

第22条　本会は必要と認めた地域に支部を設置することができる。
２．支部に関する細則は、別に定める。

### 第８章　会則の改正

第23条　本会会則の変更は、役員会の議を経て総会の承認を要する。

### 第９章　補　則

第24条　本会則の施行について必要事項の細則は、役員会の議を経て会長が定める。
第25条　会員で住所等の変更又は氏名を改めた場合は、本会に連絡するものとする。

附　則　この会則は、平成１０年３月２２日から施行する。
附　則　この改正は、平成１７年１２月１０日から施行する。
（第６条及び第１２条関係）

# 2008年の総会・懇親会は６月開催予定です！

余興やお楽しみ抽選会（ビンゴ）も例年通り行いますので、皆様ふるってご参加下さい。

教職員の方々にも現役・ご退任された方々含めて多数ご参加いただきます。
懐かしい先生に逢えるチャンスです。
会員のみなさんからも先生にお誘いをかけてみて下さいね。

**詳細な案内は後日送付しますので、お楽しみに！！**

懇親会での余興にご出演くださる方、また何かイベントを企画していただける方がいらっしゃいましたら、お気軽に同窓会本部、もしくは役員・幹事までご連絡下さい。みんなで懇親会を盛り上げましょう！

これまでのビンゴ景品は…

**懇親会ビンゴ担当者より**

毎回、最高に盛り上がるビンゴ！！
景品は、皆さんに必ず喜んでもらえるものをという意気込みで選んでます。
実際は担当者が欲しいもの・・になってるかもしれませんが。
でも、担当者も皆さんと同世代。担当者が欲しければみんなも欲しいだろう、ということで2008年もビッグな景品を用意します！
なにか景品リクエストがあれば、早めにお知らせ下さいね。

その他、毎回約30個もの景品を用意。